

美術教育の方針(四)

黒田清輝

▲科学の藝術に及ぼせる効果

現代科学思想の普及は、藝術に觸接して効果を顯はさざる能はず、技法の上に於ては調色の一新せる如き其著しき一例なるべし従來の繪畫は線形を以て唯一の要件とし、色彩は構思を助て其調和を得るの用とするのみ、復興時代のエニス派が色彩を以て稱揚せられたる以來、技藝家は常に畫室内にありて見る所の物色を寫して著しき進歩を爲さざりしが、近代の自然派が天然に親炙して技法を研きたる結果は、漸く調色の法を一變し空氣と陽光との種々の状態に隨ひて變化する物色を描出するに至る、是に於てか歐洲繪畫の素養は、希臘術に基きて人體の學理的形相を寫すに依て確かめられ、自然の道理的色調を加味して深遠なる感情を發露せんとす、是を今の時代に適應したる繪畫となす、

▲最近の傾向は想を寫さんとす

最近の繪畫は、寫實より脱化して寫想に赴かんとするものなり、今や形に色に天然の實想は殆んど究め盡したりといふべく、是より新に起らんとするは精神的方面なり、曾て開けたる印象派の主義は調色の革新にありと雖、其結果として色彩の心理的印象を描寫し、視官の實感以外なる感器に訴んとす別に「サムボリスト」と稱する一派は、同じ主義を線形に適用して、情機の微妙なるものを發表するの目的を以て輓近に起り共に天然の複雑なる顯

象を叙するに簡明の手段を取りて、道理的人間の性情を啓發せんとす、未だ現今の藝術に大なる勢力を有せざれども、之を以て將來に生ずべき傾向の一斑を徴するは決して誤なからんを信ず要するに將來の藝術は學理に背かずして思想を描出するものなることを斷言すべし

以上は歐洲藝術の概勢なり、是より我邦繪畫の現狀を究めんとす。

『二六新報』明治三十三年三月二十八日